

## 挑戦する日本の学術誌

○原田隆（東京工業大学）、白川展之（新潟大学）、林和弘（文部科学省 科学技術・学術政策研究所）  
 設樂成実（京都大学）、天野絵里子（京都大学）、高橋愛典（近畿大学）

連絡先：[harada@c.titech.ac.jp](mailto:harada@c.titech.ac.jp)

共催：紀要編集者ネットワーク\*

### 1. 概要

本セッションは、独自の取り組みをしている学術誌に関する講演を題材に現在の国内学術雑誌の課題を明らかにし、学術コミュニケーションの多様性やそのインパクトの多次元性を議論することが目的である。大学など研究機関は様々な評価を受け、それに基づき各機関に対する財政的支援などが決定されている。その評価項目の1つである「研究力」を測る指標として重要視されているのがトップジャーナル掲載および引用実績である<sup>1</sup>。各機関は、研究者がトップジャーナルに掲載される論文が「生産」される環境の整備に努め、研究者の評価、採用等において掲載および引用実績を重要視する。

代表的な研究力評価指標

|     | World University Rankings | QS World University Rankings | Snowball Metrics         | 科研費・特別研究促進費「研究力分析指標プロジェクト」報告書（2016-2017年度） |
|-----|---------------------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------|
| 量   | 論文数（著者数を含む）               | 論文数（著者数を含む）                  |                          | 論文数（著者数を含む）                                |
| 質   | 引用数<br>FWCI               | 引用数<br>FWCI                  | 引用数<br>FWCI<br>トップ%論文割合等 | FWCI<br>トップ%論文割合                           |
| 厚み  |                           |                              | トップ%論文数<br>h-index       | トップ%論文数<br>h5-index                        |
| 国際性 | 国際共著論文率                   |                              | 国際共著論文率                  | 国際共著論文率<br>CNI                             |

出典：小泉周、調麻佐志、鳥谷真佐子「大学の研究力を総合的に把握する「量」、「質」、「厚み」に関する5つの指標と、新しい国際ベンチマーク手法の提案」*TI Horizon*, 2021, Vol. 7, No. 1, 35頁（一部、修正）。

このような状況は研究者および研究機関に対するプレッシャーとなり、学術誌の「格」を最優先に考えるという姿勢が「投稿するジャーナル」をまず決め、掲載される論文の傾向を分析、それに基づき研究

<sup>1</sup> たとえば第5期科学技術基本計画は目標値の1つとして「我が国の総論文数を増やしつつ、我が国の総論文数に占める被引用回数トップ10%論文数の割合が10%となること」をあげている

総合科学技術・イノベーション会議科学技術イノベーション政策推進専門調査会  
 「第5期科学技術基本計画における指標の活用について」（平成29年3月29日）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/sihyou/katuyou.pdf>

を行い、合致する研究成果を投稿する「ジャーナル駆動型リサーチ」につながっていく<sup>2</sup>。

以上の問題意識に基づき、本セッションでは「国内学会誌、大学が発行する紀要など国内学術誌が今後どうあるべきか」という問いを考えることを通じて、研究者、研究機関、研究者コミュニティ（学会、学界）が社会に還元するべき「学術的知見とは何か?」、「どのように実現していくか?」について議論していく。

## 2. プログラム

司会・進行：天野絵里子（京都大学 リサーチ・アドミニストレーター）

### 1) 背景説明

「研究者、研究機関の評価対象としての論文」

原田隆（東京工業大学 主任リサーチ・アドミニストレーター）

### 2) 講演

講演 1

北田智久 氏（近畿大学講師）

「追試研究に特化した専門雑誌『会計科学』」

講演 2

伊藤貴之 氏（お茶の水女子大学教授）

「フルオープンアクセスかつペーパーレスな学会誌・論文誌の発展に向けて～芸術科学会での事例～」

講演 3

梅田拓也氏（同志社女子大学助教） 今関裕太 氏（江戸川大学助教）

「クラウドファンディングを利用した学術誌の創刊と運営——学術雑誌『メディウム』を例に」

### 3) テーマ討論および質疑応答

参照

【1】会計科学編集委員会「会計科学」

<https://sites.google.com/view/accscijournal>（最新アクセス：2021年9月5日）

【2】一般社団法人芸術科学会論文誌「芸術科学会論文誌」

<https://www.art-science.org/journal/>（最新アクセス：2021年9月5日）

【3】アカデミスト株式会社「メディアについて考究する学際学術誌『メディウム』を創刊したい！」

<https://dev.academist-cf.com/projects/172?lang=ja>（最新アクセス：2021年9月6日）

---

<sup>2</sup> 佐藤郁哉「誰にとっての質、誰にとっての卓越性？」青島矢一編「質の高い研究論文の書き方」54-72頁（白桃書房、2021年）所収。

講演者略歴

**北田智久 氏（近畿大学経営学部講師）**

2017年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程単位取得退学。同年、近畿大学経営学部特任講師。2019年 近畿大学経営学部講師。会計学の中でも主に、コストマネジメントや業績評価の研究に従事。2020年から『会計科学』副編集委員長。2018年から2021年『原価計算研究』編集委員。2018年 神戸大学大学院経営学研究科にて博士（経営学）取得。

**伊藤貴之 氏（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授／文理融合 AI・データサイエンスセンター センター長）**

1992年 早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所研究員。1997年 早稲田大学にて博士(工学)。2003年京都大学大学院情報学研究科COE研究員(客員助教授相当)兼職。2005年 お茶の水女子大学理学部情報科学科助教授、2011年 同大学教授。2019年 同大学文理融合 AI・データサイエンスセンター長兼任。情報科学の中でも主に、情報可視化、音楽情報処理、コンピュータグラフィックス、ユーザインタフェース、データサイエンスなどの研究に従事。芸術科学会では2002年論文誌初代編集委員長、2012年から事務局代表、2014年から2016年まで会長。

**梅田拓也 氏（同志社女子大学学芸学部メディア創造学科助教）**

同志社女子大学助教。独立系学術雑誌『メディアウム』主宰。専門は現代ドイツのメディア論。共著に『ポストメディア・セオリーズ——メディア研究の新展開』（ミネルヴァ書房、2021年）。共編著に『技術と文化のメディア論』（ナカニシヤ出版、近刊）。

**今関裕太 氏（江戸川大学基礎・教養教育センター 助教）**

江戸川大学助教。独立系学術雑誌『メディアウム』主宰。専門は20世紀のアイルランド文学およびメディア論。共著に『ラカン「サントーム」解説——ジョイス・結び目・精神病』（せりか書房、近刊）。

**\*紀要編集者ネットワーク**

2016年に京都大学の紀要の編集者およびUR Aら有志により設立。大学や研究機関で刊行される学術誌を広く紀要と位置付け、セミナーの開催などを通し、紀要関係者、図書館関係者、印刷業者、UR Aなど、紀要に関心のある人々を結び情報や意見交換の場の提供を目指した活動を行う。

**謝辞**

本セッションは、次の科研費の助成を受けたものである。

JSPS 科研費若手研究 19K14279 「大学評価への計量書誌指標の導入のもたらす社会科学研究への逆機能性に関する研究」（<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-19K14279/>）

JSPS 科研費基盤C17K02015 「紀要を見直す—被引用分析を通じた紀要の重要性の実証と紀要発展のための具体的提言」（<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-17K02015/>）